

## 我等の『同窓會』

小 見 益 男

我等をして第一に心強さを覚えさせるのは我會員中に未だ一人の老齡者も含まない事である。これは我會の大きな誇であり活動の源泉を語るものである。學生生活を終へたばかりの最も新鮮な青年から働き盛、分別盛に達しやうとする全く申し分のない活動家の集團であることである。

同窓會としての成長もこれまで順調にしかも確つかりした足どりで進行して來たと云へやう。外部から見れば異常な進展に違ひない——或は一つの脅威でさへあるかも知れない。

これは云ふまでもなく新設の濺刺たる雰圍氣の中に學び實社會に出てからの無援孤立の苦闘が然らしめた結果である。

この傳統を有たない一つの新しい勢力は年と共に社會に侵潤して次第にその壓力を加へて行つた。けれども間もなく大きな障壁の前に立たねばならなくなつた。

我會員の新しい特色——學者的である事は珍らしがられ重寶がられる半面世間的でないといふ非難と毛嫌を免れることは出来なかつた。先輩を持たない同窓生はその地方に於ける孤獨が少しづつ癒されると共に必然的に強い結束を示すやうになつた。その結果はこれまで問題にされなかつた存在が終に周圍の反感を買ひ様々な非難を受ける様になつた。

遂に所々で上田のジユダといふ語まで聞かなければならぬやうにさへなつたのである。會則に支部設置に關する規程が古くからありながら長い間支部らしい支部が殆んど出來ずに居たのは會員の少ない爲でもあつたがこの反感に對する惧が一つの原因であつたことも疑を入れない。然し實にこの特色が我會を今日の組織に導いたと云つて差支へなからう。

伸びべきものは伸びる。その持つ潛勢力は部分的な不遇を押しつけて伸長して行つた。殊に一九二七年三月の組織改革前後からは足音高く歩るき出すことが出來たのである。こゝまで來て振り返へる時誰の胸にも様々な追憶が湧くことだらう。

× × × × × × ×

頭初に述べた我等の誇は今頂點にある。古い官僚思想と傳統とに對して勇敢に闘つて來た我等の先發隊は今僅かに小康を得やうとしてゐる。その必然的結果として漸やく保守退嬰に傾きかけてゐる現況を見逃すことが出來ない。然もこの傾向は現下の經濟的不況たり就職難等の社會情勢と相俟つて新らしく輩出する若い同窓生の上に憂慮すべき影響を及ぼしつゝあることは閑却出來ない事實である。

この事は現在我同窓會が將來の發展に關して岐路に立つてゐる事を物語るものである。危機に直面してゐるとも云ふことが出來る。即ち舊來の所謂「同窓會」の型に墮し終るか、將た「同窓會」なる語に新しい意義と内容を興へ得るか否かといふことである。

こゝで我々は我同窓會は相互扶助の團体であると共に會員を人間的に思想的に尙學問的に向上させる使命を帯びた所の立派な團体的教育の機關であることを強調したい。少くともかゝる機關たらしめねばならないと信ずる。まさか會員の中に我會が他校のそれに古い帝國主義的對抗を示すためにあるなどと考へるものもあるまいがその考への僅少の存在は否定することが出來ない。我々はかゝる偏見を根本的に排し弊を大にして共同の敵である古い觀念に猛然と闘を挑ま

なければならぬ時にある事を信ずる。その爲に我々はいよいよ精進しなければならない。

X X X X X

尙我々は會員に就いて重要な一點が閑却されてゐることに氣がつく。即ち我々の後續部隊である所の學生に就てである。現在學生が母校で如何なる環境の下に教育されてゐるか——換言すれば今母校がどんな状態にあるか——を顧る必要があるといふことである。

どの科の出身にしる各科の現在に對しては誰でも甚だしい不満を感じてゐる事と思ふ。一度母校を訪れ各科に就いてその状況を探つてみたら恐らく何人も黙過出来ない様々なものに出遇ふだらう。そして外部に居た時の不満の原因を了解するだらう。

成程建物は増し新しい設備も澤山調つて昔と見違へるやうにはなつた。これは植つばなしで放つて置いた(?)木が二十年でもと裸だつた校舎を包むやうになつたのとどれだけ違ふだらう。木はこれからも伸びるだらう。然し母校は……と考へる時、その現状からして急速なテンポで進み行く社會の情勢に適應してその教育の方針が進歩してゆけるか?、甚だ心許ない。

これまでの同窓會と母校の關係を顧ると先づ母校の職員に會員がより多くより有力な地位を占めることが會の發展上必要な時期があつた。そしてその目的上直接學生指導の效果に就いては少しの關心しか持ち得なかつた事は事實である。然し既に今は初めて入學するものの品質からその後の三年間が如何に費されねばならないかを眞面目に研究し、それと現状とを對比して我々の遂行すべき手段を決定しなければならぬ時期になつた事を明かに感ずる。單に母校の教壇に會員の數を増す事を以て同窓會並に母校の改善に役立ち得ると考へる事は出来ない。この事に對しては會としてはむしろ常に警戒を怠つてはならない事を最近の事例が明瞭に示してゐる。

そこで同窓會そのものの向上と正しい方針の下に於ける新しい活動が常に必要になつて來る。その爲には會の組織

